

JUNSHIN NEWS

長崎純心大学 広報誌

Vol.100

2018(平成30)年3月

編集・発行 長崎純心大学広報委員会
〒852-8558 長崎市三ツ山町235番地 TEL 095(846)0084(代)
URL <http://www.n-junshin.ac.jp/univ/>

CONTENTS

- 2 新学科長座談会
- 5 学生による自主的平和活動
- 6 学部・大学院トピックス
- 12 大学広報誌100号記念
- 13 社会で活躍する純心生
- 14 卒業生の活躍
- 16 キャリアセンターだより
- 17 就職先から
- 18 ゼミ活動
- 19 研究室から
- 20 学外授業・活動「和太鼓演奏」



長崎のまちを 純心大学のキャンパスに

人文学部長 荒木 慎一郎

早いもので、あと1年で長崎純心大学創立25周年を迎えます。4半世紀という節目を前に、一つの提案です。それは「長崎のまちを純心大学のキャンパスに」というものです。純心大学の創立は長崎のまちの歴史と切り離せません。400年前に長崎に存在したキリシタン学校、コレジヨをよみがえらせようというのが、大学創設時のスローガンでした。

キャンパスは学びの場です。この2、3年、長崎のまちを学びの場にしようという試みをいくつか行ってきました。「長崎さるく入門」という科目もその一つ。学生は長崎のまちを歩きながら、長崎の歴史・文化・地理を学びます。このほかにも長崎地域研究といった科目も昨年から始まりました。

長崎のまちには、まだまだたくさんの学習資源が眠っています。二十六聖人記念館 大浦天主堂、出島など、一つひとつの史跡をじっくり学べば、それ自体を1科目にすることもできます。

キャンパスは学びの場であると同時に、交流の場でもあります。長崎のまちを訪れる外国人観光客との交流の場を企画するのも、これからの大事な課題です。

長崎のまちをキャンパスと見立てれば、これまでなかった発想で、新しい学びと交流の場を開いていくことができるはずです。